

＊ 佐渡米通信 **こめ〜る** 24.7 ＊

6月10日は、「佐渡生きもの調査の日」でした。農家それぞれが個人や仲間同士で田んぼの生きもの調査をしていました。また、この日7月に開催されるアイセバ（ICEBA、生物の多様性を育む農業国際会議）当日に行われる生き物調査の、事前調査を行いました。メンバーは当日のスタッフ約40名でした。東北大学の準教授をお招きし、捕まえた生き物の生態やこの田んぼでの食物連鎖のようす・水田の重要性について学びました。

イトトンボのヤゴ・ニホンアマガエル・ケラなどの生き物を観察でき、来る7月の国際会議での生きもの調査に向けて、研修方法を確認し合いました。



イトトンボのヤゴでお尻の毛見たいのが特徴だよ

この生きものは何という名前？



↑左から イトミミス、ヒラマキミスマイマイ、ニホンアマガエルのようす

6月15日から「中干し作業が始まりました」

佐渡のたんぼはGW期間中の田植えが多いことから、田植え40日後の6月15日頃から中干しという作業が始まりました。まずは田面に溝切りを行い田んぼの水はけを良くします。稲刈りまでの管理がしやすくなりますが、一方で、田んぼの水生の生きものが棲めなくなります。そこで、佐渡の田んぼにはこの中干し期間中も田んぼで生きものが暮らせるように、江（深み）を作っておくのです。



溝切り・中干し前



溝切り・中干し後



中干し・溝切りの効果

- ①根の健全化と根域の拡大
- ②無効茎の発生抑制で適正生育量の確保
- ③収穫時の機会作業が可能な地耐力の確保
- ④下位節間の伸長抑制による倒伏軽減
- ⑤迅速なかん水と用意な排水が可能

トキ情報

6羽目が巣から落ち行方が判らなくなりましたが、その後親鳥のもとへ舞い降りて、一緒に餌を探す動作が確認されました。これで6羽が無事に巣立ちを迎えられたこととなります。残りの2羽は、

今週中にも巣立ちを迎えられるようです。これに成功すると今年誕生したヒナ8羽すべてが自然界で巣立ちをすることになります。



編集人；佐渡農業協同組合
営農部米穀課 渡部・古城(ふるき)
beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp

発効日；平成24年6月